

フライキャッチャーのフライングキャッチ

秋の人気者、つぶらな瞳のヒタキ類。総称して英名では“Flycatcher”つまり、「ハエを捕る鳥」とよびます。

代表選手のサメビタキ、コサメビタキ、エゾビタキなど、皆すばらしいフライングキャッチの名手です。見通しの良い梢に直立の姿勢で待ち伏せて、近くを通る虫を発見するや、サッと身をひるがえして見事なフライングキャッチを見せてくれます。

もともと虫を捕食するのは、ほとんどの鳥がする事ですが、ヒタキ類の場合、そのフライングキャッチ (Flying Catch) のパフォーマンスがあまりにも見事で、しかもかなりの頻度で人の目につくので、印象に残るのでしょう。

偶然の一致で、フライキャッチャー (Flycatcher) がフライングキャッチ (Flying Catch) をするのですが、前者の Fly は、「ハエまたはハエのような昆虫類」を指しており、後者の Fly は、「飛ぶ」という動詞から来ています。

日本の鳥で“Flycatcher”の名のつくものを図鑑から拾ってみると、

コサメビタキ	— Brown Flycatcher
サメビタキ	— Sooty Flycatcher
エゾビタキ	— Gray-spotted Flycatcher
オオルリ	— Blue-and-White Flycatcher
サンコウチョウ	— Black Paradise Flycatcher
ムギマキ	— Mugimaki Flycatcher
キビタキ	— Narcissus Flycatcher
オジロビタキ	— Red-breasted Flycatcher

フライングキャッチで虫捕りの名人、フライキャッチャーを覚えましょう。

ムギマキなんて、そのまま Mugimaki で外人さんにわかるんでしょうか？

大宮のハクトウワシ